

## サルモネラ食中毒とその血清型について②

アグリ・サポート株式会社 境野 明  
日生研株式会社 永野 哲司

今回は前号からの続きをお届け致します。是非、御一読下さい。

前号の表1ではサルモネラ食中毒について別の側面も見えてきます。1980年代にサルモネラ菌株は3,000株以上が検出されていた中で、SEの激増によって1990年代では5,000株を超える菌株が検出される事態となりました。その後、2000年代、2010年代と検出されるサルモネラ菌株数の減少が続いていき、2020年代では200株程度までに落ち着きました。SEを除いた血清型の推移だけを見た方が分かりやすいと思いますが、食材や食物の衛生管理/冷蔵管理が徹底され、生活環境が改善されてきたことで、サルモネラ食中毒の事件数が激減してきたことが分かります。ただし、1999年のOranienburgの様に特定の食材に混入したことで検出数が跳ね上がったこともあります。こういった中でSEの激増だけが目立ちますが、近年のいくつかの論文で検出数の増加が指摘されているSaintpaul、Thompson、Schwarzengrundといった血清型については、1970年代でも一定数が検出されており、その対応策が未だ不十分であることから一定件数の食中毒を発生させ、時として最も高頻度に検出される血清型になっているのだと思われます。

まとめますと、その昔サルモネラの代名詞であったSEを原因としたサルモネラ食中毒については、焦点を絞った対応策によって発生数をかなり低減できるまでに至りました。一方で、全体的な食中毒発生数は低減されたものの、SE以外の血清型を原因としたサルモネラ食中毒に関しては十分に制御できるまでには至っていません。これに関しては、感染経路が不明であったり、原因となった食品や食材が不明であったり、原因物質に対する対応策が不十分なままであるなどの背景によるものだと思います。(永野)

日生研・永野先生の報告書のデータをみても確認できますが、SEを原因としたサルモネラ食中毒の事故数は、25年前辺りから激減してきていますが、いまだにSE食中毒の発生が散見されますので、更なる対策の強化が望まれる状況は続いていると読み取れます。

SE汚染を限りなくゼロに近づけるためには、考えられるすべてを実行することが唯一最良の方法といえます。飼養衛生管理上では、SE菌群を持ち込まない、拡散させない、伝播させないために防疫強化(HPAI対策に準ずる)するとともに、鶏の要求を満たしたストレスの少ない生産環境の提供を心がけ、鶏の免疫力を向上させておくことも肝心です。そして、SE不活化ワクチンを接種して万全を期したいところです。

SEワクチンの接種は、1998年頃より野外で接種ができるようになってきました。しかし、SEワクチン(細菌ワクチン)によるSE汚染防止効果は十分に評価されてきませんでした。恐らく、SEワクチンの感染防止の効果判定が、他のウイルスワクチンと違って分かりにくいという点もあるかと思えます。

通常、SEワクチン(不活化)の接種日齢は、90日齢前後の若メスに接種するのが一般的です。他の不活化ワクチンも同時に接種することがほとんどで、鶏へのストレス反応も強く出ることによって鶏の成長に影響がでると考えられていました。また、ワクチン代も高く接種手間も掛かるということで生産者にとって必ずしも歓迎されていませんでした。むしろ、小売業者(スーパーマーケット)が卵の安全性を担保するために、SEワクチン接種した鶏が産卵した卵を求めていることが当たり前となっているのが現状だと思います。

日本養鶏協会におけるSEワクチンの効果を確認する試験結果からも、鶏の腸管におけるSEの定着の軽減・抑止効果があるとされ、生産段階における予防対策に有効ということが分かります。昨今では、各社のSEワクチンのアジュバントの改良が進み接種反応も少なくなり安全性も高く、鶏に優しい不活化SEワクチンとして改良がなされてきています。現在では、1ショット(1ドース)での接種量も少量で済む不活化ワクチンの開発・発売がされ、ワクチン接種者の負担も軽減できるようになってきました。各社の不活化SEワクチンの特性をうまく使って行くことで他の不活化ワクチンと組み合わせることが可能となり、ワクチネーション組立の選択肢が増えたことは生産者にとっては良いことと思います。コロナ禍明けのインバンド需要は、円安とも重なり堅調に推移しています。日本食ブームと相まって海外からの旅行者にも、庶民の味方「卵かけご飯=日本の食文化」をご賞味いただき生卵の美味しさを自国に持ち帰ってほしいと願っています。この輪が広がり鶏卵の海外輸出量(輸出国)が広がることを期待しています。(境野)

## 【参照資料】

日本養鶏協会「サルモネラ感染防止のマニュアル」

「採卵農場におけるサルモネラ衛生対策指針」平成5年9月10日農林水産省畜産局衛生課長通知

「鶏卵のサルモネラ総合対策指針」平成17年1月26日農林水産省消費・安全局畜産局衛生管理課長通知

「鶏卵の生産衛生管理ハンドブック/採卵鶏・生産者編」平成24年農林水産省消費・安全局

日本獣医師雑誌「鶏のサルモネラ症の現状と対策」佐藤静雄

# ガルエヌテクト® SEWO

鶏サルモネラ症(サルモネラ・エンテリティディス)(油性アジュバント加)不活化ワクチン(シード)

## サルモネラの定着を軽減し、 健康な鶏をサポート

国内分離株を使用

少ない接種量 **0.2mL/羽**

その他  
鶏用ワクチン

日生研ニューカッスル生ワクチンS  
日生研C-78・IB生ワクチン  
日生研MI・IB生ワクチン  
ガルエヌテクトS95-IB  
日生研NB生ワクチン  
ガルエヌテクトS95-NBL

日生研ILT生ワクチン  
日生研IBD生ワクチン  
日生研乾燥鶏痘ワクチン  
AE乾燥生ワクチン  
ガルエヌテクトCBL  
日生研鶏コクシ弱毒3価生ワクチン(TAM)

日生研鶏コクシ弱毒生ワクチン(Neca)  
日生研EDS不活化ワクチン  
日生研EDS不活化オイルワクチン  
日生研ACM不活化ワクチン  
日生研NBBAC不活化ワクチン